

確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

11月26日(月)
野口

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
- (3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用



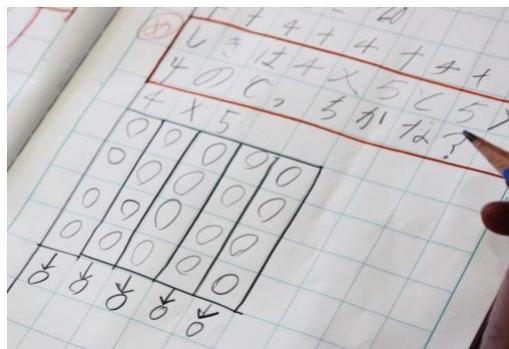
10月26日(金) 2年 算数科 「かけ算(1)」

2年1組で行われた内田先生の研究授業について、本時の授業の様子や授業研究会から見てきた成果と課題をまとめていきます。



板書もすっきりしていて、めあても子どもたちの思考の流れからスムーズに出てきました。

どっちかな？



内田先生の予想通り、 4×5 とした児童が多かったです。ノート記入や発表では、既習の内容を用いて説明をしていました。

○本時では、「対話的な学び」を引き出すことをねらいとしていました。 4×5 の説明を、図を用いて説明をしましたが、 5×4 だなという考えに変容・補強できた児童が多くありませんでした。対話的な学びの中で、相手を納得させたり、図との矛盾点などを捉えさせるともっとよかったかもしれません。

〈研究協議より〉

〜よかった点〜

- 内田先生の授業の進め方、特にコーディネートしていく姿が素晴らしかった。
- 授業での話し合いの場の取り方がとても良かった。(内田先生は、①考えを広めるため ②自分の考えを深めるため ③練習や確認の場 として話し合いの場を設定されています。)
- 意見が活発に出る学級だし、それに対しての内田先生の返し(リアクション)がとても適していた。教師のリアクションが児童の思考に影響してしまうことが多い。

〜課題〜

- 適応題まで進むことができなかったため、本時の評価をどうするのか疑問である。
- 図を用いながら、一つ分といくつ分をしっかりと捉えさせることが必要であった。また、絵を提示して視覚的な捉えさせ方も早い段階で必要であった。
- 意見がたくさん出るからこそ、児童の考えをしっかりとつなげていくことが必要である。

〈助言者 大津小学校 佐賀先生より〉

〜授業の感想〜

① 導入

時間の使い方がとてもよかったです。挿絵を見せるか見せないかは悩むところです。教師が説明しすぎていないか、色々なものを出し過ぎて、子どもが言うことがなくなるということがないようにしましょう。めあては、児童の言葉で書くということはとても大切なことです。まとめも同様ですが、今日の授業では、まとめは難しかったですね。納得していない児童がいましたので。

② 展開

発表やつぶやきは、日頃の学習の成果が出せていました。納得していない児童が納得できるようにすることが大切です。児童の考えを重視しすぎて時間が足らなくなるのもいけないし、教師主導で適応題までさらっと進むのもどうかと思います。必要であれば、軌道修正をして授業を進めていくこともあるかと思います。

③ まとめ

まとめは、どんなことが新しく分かったか、「生活に活かす」ことを振り返りで伝えられるといいと思います。それを、児童の言葉で、キーワードになるところを括弧書きにしたり、キーワードを先に尋ねたりしてまとめさせていくといいです。

〜研究テーマとの関わりについて〜

学びに向かう力・人間性については、算数の授業でどういう姿なのか、この姿であるということは、まだ具体的には言えない状況です。一つの授業だけではできないからこそ、全ての教育課程の中で育てていくこととなります。仮説へのアプローチについては、先生たちが頑張るところです。そうすれば、子どもに必ず返ってきます。次年度の研究に向けて、導入・展開・まとめをさらに一段高めていくことが必要でしょう。期待していますよ。

〈内田先生の感想〉

本時では、図を説明の道具として扱うところに課題が残りました。図をかいて「どうですか？」ではなく、図をかいて「この〇はおかしでしょ？そして、□がはこでしょ？」というような説明が納得を促すために重要だと感じました。また、5×4の児童が、4×5の児童を説得するとき、「お話を読むと、1つ分が5と分かる。」といった説明をしました。しかし、4×5の児童の中には、納得できない子もいました。それは、「お話を読む」ことが、意味を読み取ることなのか、順番を読むことなのかで食い違っていたからだと考えられます。詳しく問うことが大事だと思いました。